

## 〈全校授業研究会〉 中学部生活単元学習

「レベルアップ大作戦～働くカレベルアップ めざせ高等部!～」11/15  
身近な高等部の先輩から働く力における態度面を学び、高等部進学を意識して自己の課題解決を目指す

【導入】 前時にまとめた学習シートで振り返る。

【展開】 作戦会議で成果と課題を考える。  
体験の振り返りを発表。動画を見て付箋紙に成果と課題を書き出す。  
成果と課題を伝え合ったり、先輩の意見を聞いたりする。

【まとめ】 作業学習の目標、作業学習で頑張ることを発表する。

### 協議題

「高等部の学習を見据えて、中学部段階で生徒が自分のよさや課題を実感できる活動内容や支援の工夫について」



### 全校授業研究会 グループ協議より(抜粋)

#### ①先輩の姿から学ぶ、他者評価からの気付き。

- ・より実感できる先輩や友達から学ぶ環境
- ・学部間のつながり、系統性
- ・見学、体験。高等部生にとっても有効

#### ②他教科や日常生活とのつながり 教師による指導の一貫性。生単と作業学習とのつながり

- ・気付きを作業学習へ、そして生活へ
- ・教師からの課題提示も必要
- ・作業担当との情報共有が必要、実感がもてるよう定期的な評価
- ・学習シートの活用

#### ③学びの積み重ねの見える化

- ・前時を振り返り、めあてが意識できる支援の工夫
- ・学びを自分事にする学習シートの活用
- ・これまでの学習を常に意識できるように、模造紙にまとめて掲示

#### ④ICTの活用

- ・動画での振り返り(再現性)→自分を客観的にみる
- ・動画を見るポイントをキーワード化、「ここに気付いて」に注目できる
- ・作業学習の様子を動画で記録し、評価につなげてはどうか



### 【指導助言】秋田大学 准教授 前原 和明 先生より

支援、認識、思考の仕方を「トップダウン型、ボトムアップ型」という枠組みを扱ってみてはどうか

#### 【本時の授業について:成果】

- ・作業学習の目標設定の大切さ:学習を効果的に活用する。自己理解を導くきっかけ。事前に目標を設定して、フィードバックを受けたり、自己評価したりして、次の目標を設定していく→この繰り返しが大事。
- ・生徒は一生懸命に良い点と課題を考えていた。小学部からの基本的なルールを理解や指導が前提となって今考えることにつながっている。生徒同士の関係がよい。先輩の助言が具体的。「なぜ必要か」「どうしたらよいのか」生徒同士の作業に臨む姿勢が共有できることで、作業や社会参加に必要なポイントを内在化していくことが大切。
- ・将来の社会参加で、様々な仕事や訓練を受ける中で、生徒自身が目標設定しその結果を考え、さらに目標設定をしていく上で大変役に立つ学習内容。

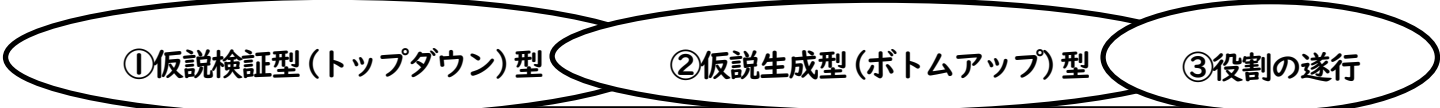
#### 【今後の授業に向けて:課題】

- ・中学部での作業学習をどのように捉え、高等部へつなげていくか。また小学部からつなげていくのか。目標設定と実践。作業学習とのつながりをどのように作っていくのが大切。
- ・生徒主体で、高等部とのつながりの中で繰り返し取り組むことで、概念を獲得できればよい。



○<小学部ワーキンググループ授業研究会 (R4. 9.6 実施) の前原先生の指導助言より>

小学部からの職業・家庭科 ~支援、認識、思考の仕方、学びを今後につなげるために~



3つの発想を意識することで、今後の指導や「つながり」に役立つのではないかと

①仮説検証型 (トップダウン) と②仮説生成型 (ボトムアップ) について

【仮説検証型 (トップダウン)】  
目的・理論・指導方針に基づいた支援

← 普通の支援や教育の中で平行してできればよい

【仮説生成型 (ボトムアップ)】  
実態から支援を作り上げる

○例えば・・・、何らかの全体像を意識して、全体像に基づいて今起きている現象を見る。それができているのか、それを学んでもらうためには何ができるのかという考え方を上からの枠組みで捉えるやり方。一つ上の学部、社会参加などをイメージできると関わりが変わるかも？

○例えば・・・、現場で起きていることを集めて積み重ねていく。児童生徒たちが今やっていることで生徒にとって、「何の意味があるのか?」「(生徒は)これが得意(苦手)」「何ができるのか?」アセスメント的な関わり。どのような配慮が必要か。見立ては何?目の前の生徒から支援を作り上げていく考え方。

↑ 今後につなげる ↓

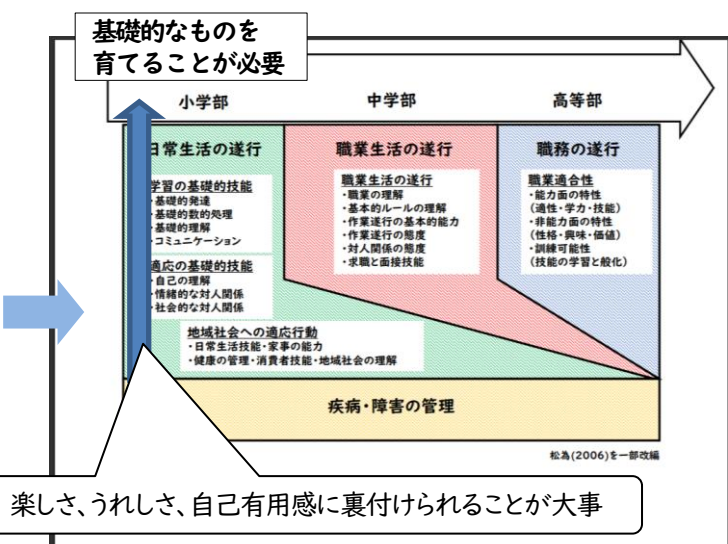
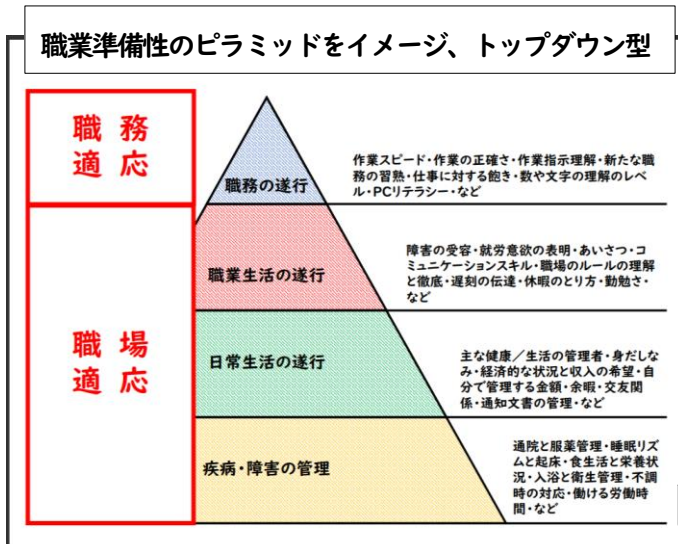
☆社会参加や就労支援で意識すること：職場でうまくやるスキルとして、「挨拶ができたらいい」「他者を意識する」「話す時、ちょっと顔を向けて止まる」「ありがとうと言う」など、高校、高等部、中学部、もしかしたら小学部の中でも「芽生え」や「きざし」みたいなことに取り組むことができる。トップダウン型の思考があると、「中学部において」「将来の社会参加」をイメージしながら関わっていくことで、今の指導が変わっていくのではないかと。

☆この子はどういう子なのか、何が必要か、どこまで支援が必要なのか。どんな配慮をしたらいいのか、小学部だったら、どこまでそれを身に付けてもらうような訓練的な関わりをしたらいいのか。アセスメント的な関わりをすることで指導の選択や範囲が変わるかもしれない。

小学部→中学部→高等部→社会参加など、次の学年を意識して平行して活用しながらやっていくとよい

③役割の遂行

☆就労支援の中では重要な概念。個人のニーズと社会からの要請の中で本人が役割を果たしていくことが必要。役割を果たしていくことでキャリア発達していくと理論的に考えられている。役割意識が大切。小学部では、役割をこなす中での「楽しさ」「うれしさ」「本人の有用感」がもっとあってもよい。就労支援において、「楽しさ」「うれしさ」「有用感」がないと、本人がモチベーションをもてず、「やりたくない」「(支援に対して)聞く耳をもてない」ことにつながる。子どもの育ちはとても大切である。



松島(2006)を一部改編